



※写真はイメージです

(仮称) けやき坂ファミリーパークのご紹介

あらすじ

1995年に大林組によるけやき坂の開発が始まりました。その頃、店舗建設予定地としてコープこうべが取得した約300坪の敷地はバブル崩壊、流通経済の変動を経て約35年間、空き地のままになっていました。近隣の尼崎市でコープこうべと地域活動を共にするNPO法人はちは空き地活用のアイデアを投入し、2020年に正式な契約関係の下、空き地の活用を始めました。2020年当時のけやき坂自治会役員への打診を行い、『協働や支援の合意形成は難しいが、地域住民にとってマイナスになる事ではない』との理解を得て、県民まちなみ緑化事業はじめ、幾つかの設備製作が始まっています。

当遊休地の整備は日本財団の助成を受けて行っております。

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION



空き地の中には草や松、ススキが群生して、一見、豊かな土壌に変遷しているように見えたが、その実、草刈りをし地面が表れるとそこにはガチガチの埋め立て地がそのままありました。

兵庫県『県民まちなみ緑化事業』に申請し、採択され、緑化事業の工事が始まりました。2021年2月の冬です。ガチガチの埋め立て地は水や空気も遮り、樹木が育つ環境に変えていくところから始まります。



工事が始まると地域の子どもが集まってくれました。空き地が一体何になるのか？楽しみでもあり、工事の様子にも興味津々でした。少し離れた場所から、ユンボが掘削する様子を見せてあげました。

過去の空き地活用で得た経験から『果樹や彩りある樹木が季節を感じさせ、訪れる楽しみになる』との思いから、果樹を中心に配した山の植生を出来るだけ再現しています。



2021年3月に土壌改良が完了し、第一期の植栽を行いました。コロナ禍の状況の中、住民全体への広報は控え、空き地入り口に張り紙をして告知をいたしました。工事を見てくださってました方々や、子どもたちが参加してくださり、施工者から説明を受けて、植栽地図に従い、樹を植えていきます。冬の間には植栽をして、水を与えて活着するまで油断できませんが、157本の木をこの日までに植え終えました。『自分たちが暮らす町の中に自分たちで樹を植えた公園があるなんて中々経験できないことだ』と仰っていただきました。子どもの一人は『自然公園だー!』と樹の植栽そっちのけで走り回っていたのが印象的でした。それからほぼ毎日、水を与えに誰かが顔を出しています。約8か月が過ぎ、初めての夏を乗り越えて、冬を迎えます。樹々の表情は一日一日変わっていき、この土地に合った性質に変わっていきます。



現在、敷地内は樹が育ち、実を付け始めた果樹もあります。その片隅に、物置小屋【丸太小屋】を製作中です。これから、どんな風になっていくのか？私たちも楽しみです。下の絵は公園の完成予想図です。果樹があり、BBQができ、ピザ窯と竈（カマド）があって、犬を放せるエリアがあり、木工工房があって、ビオトープがあって、街路樹の落ち葉は堆肥にして、物置小屋の屋根では太陽光パネルで電気を作って、雨水タンクで貯めた水を樹々に与える。この設備全てを自分たちで創っていきます。完成するのは何年後か…。けやき坂住民の皆さん、良かったら一緒に作っていきませんか？



- #DIY
- #庭いじり
- #アウトドア
- #ワちゃん
- #果物
- #自然
- #外でごはん
- #ピザ窯
- #モノづくり
- #エコロジー
- #樹の剪定
- #作物栽培
- #野外活動

一緒に公園内の設備製作を手助けして下さる方へ

この公園創りに興味を持っていただきました方は、入り口の近くに掲示板を用意し、予定を告知していきます。

参加ご希望の方は合わせてお問い合わせくださいませ。

動画:<https://www.youtube.com/watch?v=iUrOjArl630>

お問い合わせ…NPO法人はち 06 - 7162 - 1080

npo.hachi@gmail.com 担当 タナカ